

〔所 感〕

○7月2日（木）

於：自治体国際化協会パリ事務所

「フランスの地方自治制度」

コミューンという地方自治単位で組織化され、コミューン数は3万6,000で、10万人以上の都市は40団体で、日本の20倍の規模には驚いた。

唯一、優れていることは、県に国から派遣された官選の地方長官から、県議会議長に県の執行権が移行されて地方の特色が発揮される仕組みになっていることでした。

於：オワーズ混成事務組合・廃棄物処理センター

「フランスにおける廃棄物処理の取り組み・現状」

容器廃棄物の収集及び選別は地方公共団体が実施し、それに対しての支援・援助金の支給を認定された生産者責任組織が実施している。エコアンバラージュシステムでリサイクル化されていた。現地では、鉄道で運び込まれ環境的にも配慮されていた。

○7月3日（金）

於：イヴリー・シュル・セーヌ市庁舎

「イヴリー・シュル・セーヌ市の概要・街づくり」

市庁舎の視察では、歴史の深さを感じ、市庁舎を結婚式会場にも利用されていた。画期的な発想には関心した。

街づくりでは、都市計画展示室で模型での説明を受けたが、ゾーン別に特色ある街づくりが展開されていた。特に、市民参加（若者）を促進する各種施策を積極的に展開され、また、市民参加の街づくりと、景観保全政策と議会制度に傾注されていた。

○7月5日（日）

於：ストックホルム市国立公園・ユールゴーデン

「ストックホルム市の国立公園の概要」

世界で初めての都市公園と認定されただけあり、市民団体・自治体・政府が一体となりエコパークに取り組み、自然環境保護の重要性を感じた。

於：ストックホルム市ハンマビー臨界地区

「ハンマビー臨界地区プロジェクトの概要」

港町のあるべき姿を模型で説明を受けた。柱のない街灯等にも工夫されていた。

「ストックホルム市議会公式訪問」

マルガレータ・ホルム・バリー議員より、交通政策・循環型都市づくりと議会制度について説明を受けた。特に、街並みを視察し、環境問題には敏感に対応されていることを改めて実感した。

○7月7日（火）

於：ハイデンベルク

「ギーセン市議会公式訪問」

BID（ビジネス・インフラ・ディストリクト）導入の成功例で評価の高い旨の説明を受けた。官民パートナーシップによる地域活性化にも取り組みが展開されていた。

○7月8日（水）

於：ハイデンベルク

「医療保険制度改革」

2009年の医療保険制度改革により、競争が激化する地区疾病金庫（AOK）の生き残りをかけた施策について説明を受けた。やはり日本同様に高齢化で、支える側の人口減で状況は厳しく感じた。

